

## 「目が白く変わると皆死んだ」…「致死率100%」コロナ変異ウイルスを作り出した中国

2024/1/18 中央日報

中国研究陣が致死率が100%に達する「コロナ変異株ウイルス」を作り出した。

17日（現地時間）、米紙ニューヨーク・ポストによると、北京科技大学・北京PLA総合病院・南京医科大学など現地研究陣は2017年鱗甲目から発見したコロナウイルスを変形させた「GX\_\_P2V」を製造した。研究陣が「GX\_\_P2V」を実験用ネズミ4匹に感染させた結果、8日後に全個体が死んだ。

今回の実験に使われたネズミは人にある「ACE2」タンパク質を発現させた形質変形種で、遺伝的に人と非常に似たものだった。

GX\_\_P2Vはネズミの肺や骨、目、気管、脳に感染し、状態が悪化したネズミは結局死んだ。研究陣は「死ぬ前の数日間、ネズミは急激に体重が減って姿勢がやや曲がり、動作の速度が著しく遅かった」とし「死亡率が驚くほど高い」とした。

ニューヨーク・ポストは「死ぬ前日、ネズミの目が真っ白に変化した」とし「これが何よりも不気味だった点」と伝えた。

今回の研究はコロナ関連のウイルスに感染したネズミの致死率が100%と報告した初めての研究で、4日バイオ分野の論文シェアプラットフォーム「bioRxiv（バイオアーカイブ）」に発表された。

該当の研究が発表されると、学界では2016～2019年武漢ウイルス研究所の研究のように今回の研究がまた別のパンデミックを引き起こす「潜在的な感染性病原体」を作り出したとして深く懸念した。

UCL（ロンドン大学ユニバーシティカレッジ）遺伝学研究所のフランソワ・バルー所長は、この研究が「最悪で、科学的に全く無意味」とし「研究に使われた生物安全性水準や生物安全注意事項が明示されていない」と指摘した。

ニューヨーク・ポストは「このような研究結果を発表するということは、中国がパンデミック以降も研究を無謀に行っていたことを物語っている」とし「もう一つの世界的なパンデミックが再び始まる前に“火遊び”をやめなければならない」とした。

**中国・武漢で新型コロナの実態告発した陳秋実** 2021.06.01

2020年中国武漢で新型コロナウイルス拡散実態を告発した後に行方がわからなくなった市民記者の陳秋実。彼が3月に約1年ぶりに釈放されていたことがわかった。陳秋実は新型コロナウイルスが広がり封鎖された武漢に入り、診療すら受けられない現実を見せたり、病院の葬儀式場に潜伏して実際の死亡者数がどれだけなのか検証するなど、中国政府にとって敏感な部分を集中取材した。

**中国、武漢の実状伝えた市民記者に懲役4年宣告** 2020.12.28

武漢の実状知らせて拘禁された中国の市民記者…懲役4年の刑宣告

新型コロナウイルスが最初に拡散した中国・武漢の実態を伝えて当局に拘禁された市民記者が懲役4年の刑を宣告された。28日の香港紙サウスチャイナ・モーニング・ポストによると、上海人民裁判所はこの日公共秩序を乱したという容疑で起訴された元弁護士で市民記者の張展氏（37）に有罪判決を下した。張展氏の弁護士はこの日「張氏の健康状態は良くない。控訴するかどうかはすぐに明らかにしなかった」と伝えた。